



ひろ せ きゅう べ え 広瀬久兵衛

塩谷代官とともに、大分県の農業水利施設の礎を造った人物

1790年(寛政2年)～1871年(明治4年) 没年82歳(数え年)



取入口

主な事業

- 小ヶ瀬井路開削
- 宇佐新田群開発
- 吳崎新田開発
- 吉兆原・庄ノ原開拓
- 元治水井路改修

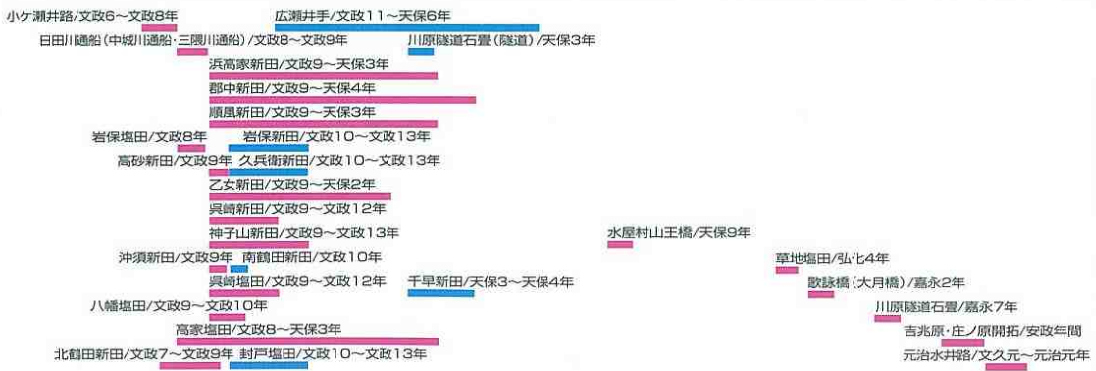
広瀬久兵衛の言葉

義欲の事、人は欲なき者はあらず、さりながら義に偏き候時は欲をも捨て申すべき事に候

義と欲のことについて述べれば、人で欲のない人は「ません、しかし、考えが欲よりも、義に傾いた時には、欲の方を捨てねばならない」ということで「さいいます。」



| 年号 | 元号 | 年齢 | 生涯 | 工 | 事 | 業 | 績 |
|-------|-------|--------|-----------|---|---|---|---|
| 一七九〇年 | 寛政二年 | 1 | 誕生 | | | | |
| 一七九九年 | 寛政十年 | 9 | 兄淡窓福岡より帰郷 | | | | |
| 一八一〇年 | 文化七年 | 21 | 家督相続 | | | | |
| 一八一二年 | 文化九年 | 23 | 宗家第六世と結婚 | | | | |
| 一八一七年 | 文化十四年 | 28 | 相良亮りきと結婚 | | | | |
| | | | 塩谷大四郎着任 | | | | |
| 一八二八年 | 文政十年 | 39 | 源兵衛が | | | | |
| 一八三〇年 | 天保元年 | 41 | 広瀬家に入る | | | | |
| 一八三一年 | 天保二年 | 42 | 兵衛が結する | | | | |
| 一八三二年 | 天保三年 | 43 | 長女吉手と源 | | | | |
| 一八三三年 | 天保四年 | 44 | 隠居 | | | | |
| 一八三五年 | 天保六年 | 45 | 掛屋を命ぜられる | | | | |
| 一八三八年 | 天保九年 | 49 | 公儀より苗字差許 | | | | |
| 一八四〇年 | 天保十年 | 51 | 塩谷大四郎東遷する | | | | |
| 一八四五年 | 弘化二年 | 56 | 関与 | | | | |
| 一八四九年 | 嘉永二年 | 60 | 府内藩財政改革 | | | | |
| 一八五五年 | 安政二年 | 66 | 内室死去 | | | | |
| 一八五五年 | 安政二年 | 75 | 後妻となる | | | | |
| 一八五五年 | 安政二年 | 75 | 安政が | | | | |
| 一八五五年 | 安政二年 | 75 | 淡窓没 | | | | |
| 一八七一年 | 明治四年 | 82(数え) | 没(九月二十九日) | | | | |



おがせいろ

小ヶ瀬井路 (文政6年～文政8年、1823年～1825年) 久兵衛34歳～36歳

※1
 文化14年(1817年)、塩谷(しおのや)大四郎が日田代官として着任しました。
 塩谷大四郎は49歳、広瀬久兵衛は28歳でした。塩谷は着任より20年間、大きな公益事業を次々に起こしました。
 この事業を支えたのが広瀬久兵衛でした。塩谷着任後6年目、小ヶ瀬井路工事に着手します。



当時の堰は、写真中央の沈み橋付近にあったそうです



現在は九電と共用のサイホン形式になって、川床を通り出てきます

小ヶ瀬井路は、享保19年(1734年)ごろから、文化12年(1815年)にかけて、度々、調査が行われていました。しかし、種々の悪条件を克服できずに、そのままにされていました。



堅岩のため源ヶ鼻では20日で、わずか8尺5寸(2.6m)しか進まなかったそうです



久兵衛が工事の時に使用したといわれる蓑

博多屋広瀬久兵衛が、升屋草野忠右衛門を相役として、新井手築造を塩谷大四郎に願い出ました。工事を仕切ったのは、久兵衛の従兄、魚屋長八でした。



小ヶ瀬井路

しおのや だいしろう
 ※1 塩谷大四郎

武蔵国葛飾郡の人。文政6年の小ヶ瀬井路工事より、次々と大工事を起こしました。義倉「陰徳倉」(被災者や老人への救い米)を造ったり、盲人養育田を作りました。少し性急すぎることあって、江戸に召喚されました。没年68歳。日田には、1817年～1835年の19年間在住しました。

| | |
|--------------|--------|
| 総延長 | 2754m |
| このうち隧道 | 900m |
| 新規開田 | 約120ha |
| 受水する地域の米の取れ高 | 2357石余 |

大原神社の前を通る小ヶ瀬井路(日田市)

工事の難所は、^{こそやま ずいどう}会所山の隧道工事でした。
 地下数十丈(1丈は約3m)のトンネル工事でした。

玖珠川の水は、小ヶ瀬井路により、13ヶ村の田を潤し、^{じょうない}城内川と合流し、増水したことにより日田川通船として、物資の河川運搬が可能になりました。小ヶ瀬井路は日田に大いなる恵みをもたらしました。



小ヶ瀬井路の内部(現存部)

エピソード

I

「水郷日田の水は、小ヶ瀬井路の水!!」

玖珠川より取り入れられた農業用水は、小ヶ瀬井路を通り、日田市内を各々小水路に分かれ流れてゆきます。この水は、血管のように日田市内を流れています。

昔は、この水が生活用水、日田川通船、防火用水に使用されていました。今でも、生活用水としての多くの機能を持っています。日田市土地改良区(農業用水管理団体(旧)日田市中央土地改良区)と日田市が管理しています。



広瀬久兵衛の事業位置図

広瀬久兵衛は、塩谷代官のもとで天領、島原領の工事を行いました。
 そのため、日田のみならず宇佐・国東でも工事を行っています。
 又、藩の財政顧問として、府内藩（大分市）、対馬藩の工事も行っています。



エピソード

II

「事業を行う時は、現地住まい」

工事が始まると、久兵衛は現地に住み、毎日工事現場に通ったそうです。小ヶ瀬井路工事の時に、自宅から通う時に使用した蓑が残っています。豊後高田市の呉崎新田では、新田の堤防汐留ができる、家を建て開発の事務をとったそうです。

吉兆原・庄ノ原の工事の時は、現机張原バス停の近くに住んでいました。

久兵衛の名前はいくつある？

久兵衛は名は嘉貞、字は子禮、南陔と号し、別に俳号を扶木といったそうです。
 久兵衛は通称で、初めは土五郎、又は正蔵とっていたそうです。
 その後に嘉貞になりました。



久兵衛の事業については、2つの時期に区分できます。

1つは、塩谷代官の事業を天領の掛屋^{かけや}として助けた28歳～46歳までの時期です。
もう1つは、塩谷代官帰任後の47歳～82歳までのものです。

代官帰任後の久兵衛は、人物、手腕、財力、地位、業績が九州内に知れ渡っていたので、各藩は行財政改革のために、広瀬久兵衛を迎え入れようとしたのです。

(※掛屋とは、「天領から上がる税金を扱う所」。その税金を貸し付けて、運用した。)

エピソード

III

「75歳の広瀬久兵衛と26歳の南 一郎平」

宇佐市の広瀬井手は、宝暦元年(1751年)宇佐神官が工事を開始して以来、3度失敗していました。5度目に挑んでいた南一郎平(26歳)も、資金も尽き、府内藩に財政改革で来ていた久兵衛(75歳)のもとを訪れました。

広瀬井手は、過去の3度目の工事で久兵衛が取り組んだが、塩谷代官が江戸に帰任したため事業が途中で中止となった困難な事業でありました。久兵衛は南一郎平の決意の程を確かめ、決意の確たることを知り3千両を貸与しました。一度、宇佐に帰った一郎平は、他の人達より「不成功の場合、負債は返さなくてよい」との証文を久兵衛より貰うように迫られました。一郎平が久兵衛に相談したところ久兵衛は快く一札を書くことを承諾しました。



エピソード

IV

「日田から府内(大分市)は1日行程」

府内藩の財政再建を行っている時、日田から大分には、久兵衛は歩いて行ったそうです。大分～日田間は高速道路で93.9kmです。4km/hrで歩けば23hrかかります。久兵衛は、1日目、朝4時から出発し、夕方4時には湯布院の宿に到着したそうです。そして、翌日の朝4時に発ち、大分市内に朝9時に着いたそうです。久兵衛は17hrで歩いています。

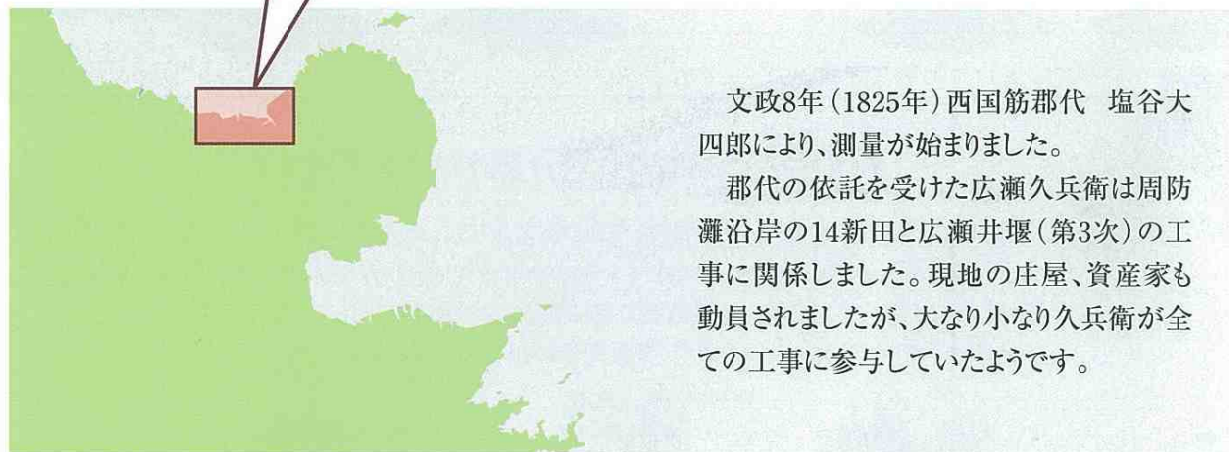


県北の新田開発事業 (文政7年～天保4年、1824年～1833年) 久兵衛35歳～44歳

日田付近の土木工事が一段落つくと、塩谷代官は県北の干拓事業を開始します。

呉崎新田は、文政9年、塩谷代官の命により久兵衛が工事を引き受けたものです。3年半かかり完成しました。

塩谷も久兵衛も、日夜、笠をかぶり、雨の日も風の日も土工と一緒に働いたといわれています。



文政8年(1825年)西国筋郡代 塩谷大
四郎により、測量が始まりました。

郡代の依頼を受けた広瀬久兵衛は周防
灘沿岸の14新田と広瀬井堰(第3次)の工
事に関係しました。現地の庄屋、資産家も
動員されましたが、大なり小なり久兵衛が全
ての工事に参与していたようです。

エピソード

V

親族からも反対された豊前の干拓工事

久兵衛は塩谷代官の命を受け、小ヶ瀬井路、日田川通船の工事を無事竣工させましたが、
続いて豊前諸々の新田開発が始まりました。久兵衛が、再びこの工事の周旋監督を命じられ、
兄淡窓と弟伸平は大いに憂慮し、久兵衛を諫めて止めました。しかし、久兵衛の塩谷代官へ
の献身的な、まごころを止めることができず、久兵衛は、この工事へも出てゆくこととなりました。
(淡窓の「懐旧楼筆記」より)

かん たく

空から見た県北の干拓



〔豊後高田市〕

(空撮) 吳崎新田

広さ……………360ha

堤防の長さ……………5400m

工事……………3万両

人夫……………延人数33万人

久兵衛の功を称賛して、塩谷代官が中央の川を
広瀬川と命名しました。

〔宇佐市〕
(空撮) 浜高家新田～神子山新田
久兵衛の役割は立案と技術援助であったと
思われます。



〔宇佐市〕

(空撮) 岩保新田・久兵衛新田

- ・久兵衛新田は、自費で造成したもので、
塩谷が称賛して命名したものです。
- ・岩保新田は、宇佐郡内の親族と共同で出資して
造成したものです。

エピソード
VI

〔久兵衛の道楽は居宅の普請?〕

久兵衛は居宅の普請を大変好み、職人を常に傭っていたそうです。「自分が通りかかると大工は
何時も鉋を研いでばかりいるが、あれで仕事が捗るだろうか。」と笑っていたそうです。

(※2 普請：修理、建築)

広瀬久兵衛の人となり

広瀬久兵衛は、掛屋として理財の敏腕を持ちながら、公共奉仕の心を持っていました。出資する立場でありながら、農業用水、干拓、塩田、道路等の殖産工事を、現地で直接指導することにより成功に導きました。決意を持った人間なら、どんな困難なことでもやり遂げられると信じていたようです。産業を盛んにする土木工事により、地域振興を成し遂げた郷土の偉人です。



広瀬久兵衛の農業水利以外で成し遂げた仕事

広瀬久兵衛嘉貞翁の事蹟は、農業水利工事（干拓、用水路、開拓）にとどまりません。通船事業、塩田事業、石畳整備、橋等と、産業振興の社会資本整備に力を注いでいます。幕末に財政危機に陥った幕府関係の諸藩に、経営コンサルタント的の手腕もふるっています。



廣瀬資料館に残る小ヶ瀬井路古図

■ 広瀬久兵衛の関わった諸藩：対馬藩、府内藩、福岡藩等

・千早新田（福岡県前原市） ・水屋村山王橋（佐賀県鳥栖市）

■ 広瀬久兵衛の携わった農業農村以外の事業

- ・日田・玖珠両郡を連絡する道路の改修
- ・川原隧道 長さ約50m 高さ3m 石畳道
- ・歌詠橋（完成後1年にて流出）
- ・日田川通船工事
- ・呉崎塩田（立案、設計、施工、融資）
- ・岩保塩田、草地塩田、高家塩田、八幡塩田、封戸塩田（立案、技術援助）



参考文献：大分市史 贈従五位広瀬久兵衛伝
作成：大分県農林水産部農村整備計画課

協力：廣瀬資料館
印刷：佐伯印刷株式会社

